

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人沼風会		
事業所名	グループホーム沼風苑		
所在地	千葉県柏市箕輪588		
自己評価作成日	平成26年8月12日	評価結果市町村受理日	平成26年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームやデイサービスを併設している為、特別養護老人ホームの大ホールにて合同で映画上映会やファッションショー等、様々な催しを行い利用者様やご家族様に喜ばれている。また、利用者の想いを大切にしており、利用者の声から自分たちで献立を決めてもらい買い物に行き昼食を作ったり、かき氷や流しソーメン、急きょ炭をおこして焼き鳥を焼くなど、柔軟な対応をとれる様に心がけています。各行事に家族の参加を呼びかけ一緒に過ごす機会を作るようにしています。運動会、納涼祭ではたくさんのご家族が参加して下さい、一緒に楽しい時を過ごされました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「道の駅しょうなん」近くに位置し、梨畑や山林等の自然に恵まれた3ユニットのグループホームである。同一敷地に特別養護老人ホーム「沼風苑」をはじめ7つの事業所があり、各種施設の共同活用や応援で法人の総合力が発揮されている。ホーム全体の運営は全て経験豊富なケアマネジャーと3人の若手管理者の合議制であるが、各ユニット毎に管理者と職員が創意工夫して独自性を発揮している。このユニット間の連携とより良きサービス競争は、ホーム全体の介護の質の向上に結び付いている。利用者や家族の希望も取り入れた行事は多彩であり、家族の参加も多く好評である。今年度利用者アンケートは回答者数が大幅増加し、継続して評価も高く、感謝と信頼の声が多い。ホーム理念が全職員に定着し、利用者や家族にとって満足度の高い運営となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①自由な生活②開放的な生活③安心・安全の3つを挙げ実践している。また、もう少し具体的に表したものを広報紙に提示し心掛けています。	法人の基本理念「心から安心して潤いのある快適な生活」を、更に具体化した「ホーム独自理念」を全職員で話し合い、作り上げ家族にも公開した。日常介護の中で確認しあい、理念の実践に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大井のつどいや箕輪の集いに参加。又、ボランティアや学生の職場体験の受け入れ等行っている。運営推進会議にて地域との交流について話し合った。今後はもっと地域に出ていきたいと考えている。	周辺に民家がなくふれあいが少ないので、地域行事にはなるべく多くの利用者が参加出来るよう支援しており、歓迎されている。地域住民には行事へのお誘い、多様なボランティアや実習生受け入れ等を行っている。	引続き交流計画を幅広く検討して積極的に実施願いたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在はあまり行えていないが、地区社協や老人会と協力し行動を起こす予定でいる。認知症の研修は法人内で行っている。また、認知症ケア指導管理士の資格を持った職員がいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回開催している。会議録には全職員目を通し、改善が必要な場合には話し合いサービス向上に努めている。	年3回開催され参加者も広範囲で熱心に討議され、質問や提案も多く参加者のホーム運営に対する理解は深まっている。全職員は議事録をよく読み検討し、問題や課題を共有化を図り、改善に取り組んでいる。	会議開催回数を増やす事、テーマ、進め方等について、ホーム内で検討を重ねており、益々充実した会議運営となる事を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課介護基盤整備室(主にGH連絡会を通して)密に連絡を取り合っている。	地域包括支援センターには運営推進会議に定期参加してもらい、その際に情報交換や相談をしている。高齢者支援課には必要な時に訪問して相談するなど、市との緊密な協力関係が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修を実施し理解を深め、身体拘束は原則しないケアを実践しているが、安全の為玄関の施錠やベッド柵の使用を行うこともある。その際はご家族の同意書を頂いている。	職員は市研修会や苑内研修に参加して理解を深めてケアに活かしており、家族には入居前や来訪時の説明で理解を得ている。広い敷地内にオープンデッキを挟んで二つの建屋があり、ユニット間はいつも自由に交流出来、開放感が確保されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう日頃より申し送りをしっかり行い防止に努めている。外部研修に参加し理解を深め、実践している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できる支援体制は整えられている(外部研修の参加など) 柏市主催の研修に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いずれの場合も十分な説明をおこない、家族の不安や疑問点がないか尋ね、納得、理解の得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて報告し意見を聞いたり、玄関に意見箱を設置したり、必要であれば家族にカンファレンスに参加していただいている。どれだけ本音を言えているか？という点は課題である。	利用者の要望は日常介護時によく聞いている。家族要望はケアプラン検討時、担当者会議、来訪時等に聴き対応している。重要意見、要望はホーム幹部4人で相談し運営に反映させている。運営推進会議、外部評価結果は家族へ公開され関心が高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。月1回、セクション会議があり自由に意見・提案することが出来る。8/4に全職員で現状、今後の課題や方針について話し合った。	管理者は年2回の人事考課の場や日常の会話、その都度に積極的に職員の意見を聞き、運営や改善に活かしている。課題や問題点は全職員参加のグループホーム沼風苑運営会議で検討し、解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職場環境を整えてくれている。キャリアパスを導入している。様々な研修があり、自由に参加できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修や外部講師を招いての研修を通じて、職員の知識・技術の向上に努めている。研修委員会が中心となり活動している。今年度は中級コースとしてレベルの高い研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会があり、意見交換(スタッフ交流会)など幅広く行っている。また、スタッフ交流会での意見から順番に各施設を見学する取り組みを始めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを心がけ、本人の言葉や表情や態度等から不安・要望をくみ取り、安心な生活が営めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴等を聞き、職員間で共有するように心がけている。家族の訪問時には細かな情報交換を行い信頼関係を築く様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時取り入れられるよう、職員各自が変化に注意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、家事など出来ることは極力やってもらい役割作りに努めている。また、時にはわざと教えを乞うなど工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、共に過ごせる機会を提供できるよう心掛けている。こまめに畑を管理しに来てくれる方や毎週、宿泊される方、毎週末に自宅に外泊に行かれる方など良い関係が築けてきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、家族と一緒にの外出や遠方の方や大勢での面会等もおこないやすい環境作りを心がけている。(特別面会室等)ボランティアの訪問や地域の集い、外出時に知り合いに会うこともある。	一言を添えた本人自書の賀状投函が恒例になっている。知人や遠来の家族の訪いには丘の上の家(特別面会室等)で面会や宿泊してもらうなど支援している。年来のボランティアさんが新たな馴染みの関係にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自のレベルや趣味・趣向を知り利用者同士がスムーズな関わりが出来るような支援を心がけている。お互いの居室を訪問するなど関係が出来ている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や新館に異動された方に散歩がてら会いにいき、近況を共有している。サービス終了後も相談に応じるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で利用者の情報共有を徹底し、日常生活や会話等から希望・意向を探り、カンファ等を開き検討・対応している。意思表示のできない方は表情等から気持ちを汲み取るように心がけている。	契約時に本人・家族からどう暮らしたいかの希望を聞いている。センター様式シートに、コミュニケーションと日常生活動作等から、一つ一つの思いを積み重ね、気持ちの把握に努め、カンファレンスで検討し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得た情報をケース記録し職員間で共有している。又、利用者本人とのコミュニケーションに努め内面から知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録により日々の変化や気づいたこと等、情報を共有している。又、カンファレンスを行い職員全員が問題点や対応法を把握できるようにしている。必要であれば、その都度アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さな変化や現状を細かくナース、ケアマネにも相談・報告しカンファレンスを開いている。担当者会議に家族も参加してもらい現状や問題点等を把握してもらっている。介護職員がケアプランを提案することもある。	報・連・相の仕組みが機能しており、小さな気付きも連絡ノートに記入・閲覧して、状態を把握共有している。担当者会議に家族の参加も得て、現状の共有を図っており、本人本位の介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やケアプラン考察、月間考察を行っている。変化や発見があった時はプランの見直しのためのミニカンファを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望・要望に常に耳を傾け、出来るだけ実践するように心がけている。入居者の声から焼き鳥や流しソーメンを行った。月1回、入居者と献立を作り、買い物から調理まで行う取り組みをしている。ホールにて週1回、映画会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ではあるが、買い物に行く等している。ボランティアが積極的に来苑してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的に往診を受けている。歯科は毎週水曜日往診あり。急変時は電話での指示やナース対応もしている。月1回、リハビリ指導（柔整師）や毎日、嚥下体操を行っている。	月2回の医師の往診、毎週の歯科医来診や柔整師のリハビリ指導等がある。いつまでも口から食べることが出来るよう嚥下体操・口腔ケアに注力している。インフルエンザ時期には、全員予防接種を行い感染予防に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、食事量、便秘など報告相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが自主的に見舞いに行き、家族や病院からの情報を入手して対応している。また、定期往診時ドクターより様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族等と十分に話し合いをし、確認書を取り交わし終末期のあり方等入居者に合わせたケアをスタッフ全員で共有し行っている。	医師・家族・看護師・職員等協力と信頼のもと、思いに添える支援に取り組み、家族から感謝されている。管理者は職員の看取り後の心のケアにも取り組んでおり、職員ヒアリングでも確認したが、一歩向上した職員の姿が見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を定期的におこなっている。看護師、協力病院にも連絡がとれるようマニュアル作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの訓練（年2回）、他にも地震や火災を想定した自主訓練をおこなっている。地区の消防団に加入している。引き継ぎ表等を作成し、備えている。	消防署指導の訓練では利用者也避難訓練の実際を体験してもらい、災害時の対応を再確認している。3日分の備蓄の他、今年度は薪ストーブを使つての緊急時の炊き出し体験を予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重することを一番に考えセンタードケアの実践を心がけている。特に呼び方には気を付けている。法人内に資格者があり、必要時はマッピングを行いケアに生かしている。	ちゃん付けや友達言葉、荒っぽい口調、耳障りな言葉等は使わない、目上の方そして「対等の付き合い」という思いで接している。若い職員を孫と思い込んでいる利用者には、「孫」になって対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけたり、一人一人の理解力に合わせて説明を行い、自分で決定できるような声掛けなどを行いながら納得して生活してもらえるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、できるだけ利用者のペースに合わせるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、洋服を選んでもらったり、その人らしくなるように支援している。また、洋服を褒める等を心掛けている。3か月ごとに資生堂化粧教室を開催している。デイサービスと合同でファッションショーを開催した。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、野菜切り、皿洗い、皿拭き、テーブル拭き等無理のないように一緒におこなっている。また、食器は自分の物を使用している。テーブルに花を飾ったりしている。畑でとった物が食卓に並ぶこともある。	野菜の下拵え、食器洗い等出来る方は一緒に行って、また食器は各自のものを使用している。リクエスト料理や郷土料理では、買い物や調理、味付けなど職員と和気藹々として、美味しく楽しい食事風景が見られる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談の上、メニューを決めている。食事形態も一人一人に合わせて対応している。必要に応じて食事量、水分量を記録し確保できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯科往診にて行っている方もいる。歯科衛生士による口腔ケア研修を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせ支援している。日中はできるだけトイレで排泄できるようにし、立位が取れない方には二人介助を行っている。研修(中級)にて失禁を減らす取り組みをしている最中である。	日中は全員のトイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握し、事前の誘導に努めている。立位が取れない方には二人介助を行っており、トイレでの排泄が運動機能維持や羞恥心への配慮に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況は常に把握しており、一番いい方法(薬、牛乳など)を看護師や栄養士と相談して対応している。43と同じく、研修の取り組みとして自然排便を促し、下剤を減らす努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、風呂は沸かしてあり個人の希望に沿って、時間を問わずに入浴してもらっている。夜間は安全の為、行っていない。拒否のある人は特養の大浴場を使用させてもらうこともある。	いつも風呂は沸しており希望により毎日入浴も可能だが、週2～3回昼間の時間帯に入浴支援をしている。拒否のある方には時間を変えたり、時には場所を変え、特養の大浴場や新館の檜風呂で入浴してもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決まっておらず、一人一人の習慣・状態および体調を観察しながら安眠できるように支援している。日中も自由に休んでいただける様にしているが1時間ほどで起こすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつも見れるようファイルにして保存しており、症状の変化に気を付けるように努めている。処方が変わった時は、申し送りを徹底している。誤薬防止の為、複数回の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティ・家事・散歩等の実施で生活に楽しみ、喜びを見出している。また、どんな事に喜びを感じるのか？普段からよく観察しケアに取り入れる様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝礼、ゴミ捨て、他ユニットに行くとき等は一緒に行くようにしている。散歩、外気浴・ドライブ、買い物など外出の機会を設けている。日帰り旅行の実施も毎年おこなっている。	本館での朝礼に同行や、リクエスト料理の食材買い出し、ゴミ捨て、散歩等の日常的な外出支援に努めている。地区の集いには毎回参加している。、初詣や花見、また楽しい日帰り旅行は各ユニット毎に実施しており、アンケートでも評価が大幅に高まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ファミリーマートの出張販売や、日帰り旅行で買いものをする機会を設けている。自分で管理できる方には自分で管理してもらっている。ヤクルト訪問販売や自動販売機を利用することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に応じたり、希望時に電話をかけたりしている方もいる。はがきを書いたり、家族に自分の思いを書き出せるように支援している。携帯電話を利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を利用し、刺激のないように考慮し、季節の花、行事、お誕生会の写真を飾ったり、季節感を常に感じていただけるよう生活に取り入れている。	居間には小さな図書コーナーや、小上りの畳コーナーが設けられ休養や寛ぎに使用されている。回廊式の通路には作品や写真等が掲示され、休憩コーナーにはテーブルとソファが配置され、一人で居たい時や家族の面会時に利用されたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの相性を考慮して声掛け、席の工夫をし、笑顔をみられるよう心掛けている。廊下の談話コーナーにイスを置き、静かに過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自ら使用していた家具・小物などを配置し、安心して過ごせる様にしている。温度管理、清掃にも注意している。	各室とも広めに設計されており、入居前に使用していた馴染みの家具や小物など好みに配置されている。拭き掃除や片付けなど出来る方は、自室の掃除を職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存機能・能力を生かし、見守り、声掛けを行うことで安心・安全な生活がおこなえるよう支援している。トイレや自室に目印をつけ、迷わないようにしている。		